

新しい集会への挑戦

毎年、6年生への感謝の気持ちを込めた「6年生を送る会」を行っています。しかし、コロナ禍のため、今までのように体育館に全児童を集めて行うことはできません。そこで、5年生と若手教員が、一カ月をかけて、zoomを使った集会で学校の心をつつにできないかを考えました。その時の模様をお伝えします。

各教室には、昨年より電子黒板が入っています。また、担任一人一人にはタブレットが一台ずつ供与されています。このタブレット同士を通信でつないで、その画面を電子黒板に投影します。要は、タブレットがテレビ中継カメラであり、各家庭のアンテナ、そして電子黒板がテレビという具合です。

まずは、集会で行うセレモニーを6年教室で行い、それを実況中継しました。2クラス同時の進行は密になるため無理なので、担当者とカメラ（タブレット）が行ったり来たり。しかし、これが生中継の臨場感を醸し出しました。



タブレットで撮影 生中継



次に企画委員が考え出したのが「各クラスを繋ぐ」でした。先ほど書きましたように、タブレットはアンテナの役割だけでなくカメラの役割ももっています。各クラスのタブレットで、各クラスの様子をリレー形式で中継していきます。（ニュースでよく見る全国各地からの中継を想像していただけたら）もちろん、初めての試みですから通信トラブルはありましたが、担任の連携プレーで乗り切りました。6年のクラス（もちろん全クラス）

には、各クラスからの温かいメッセージが届けられました。また、

卒業式で掲げる各クラスが作成した一文字も紹介され、クラスの発表が終わると、その一文字が6年生廊下に集合しました。

各クラスからの中継が終わると、映像作品を制作するのが得意な若手教員による「6年生 学校での思い出」の映像が全クラスに流されました。1年生の写真から始まり、最初は大爆笑だった6年生も学年が進みにつれ笑い声も消え、目にはうっすらと涙が浮かぶ様子が見られました。

映像が終わると各クラスの代表が6年生廊下に集合。まずは6年生に記念の贈り物を渡しました。（6年生一人一人に色紙を渡しました）次に6年生から在校生一人一人にシトラスリボン（新型コロナウイルス感染者そして医療従事者に対しての人権を守ろうということから提唱されたもの）をプレゼント。

最後に校長室からの中継。校長より6年生への感謝、この会を企画した5年生への感謝、そして盛り上げてくれた全校生への感謝の言葉があり、会が締めくくられました。

6年生からは「すごくうれしかった。すごいと思った」「準備がとても大変だったと思う。会った人、一人一人にお礼を言いたい」「色紙のメッセージを読んでうれしくなった」等々、感激と感謝の声がたくさん聞かれました。

最初は zoom での集会に懐疑的であった雰囲気も、今では新しい可能性をもたらしてくれるのだと、ある意味、中村小に情報革新をもたらしました。企画をしてくれた5年生と若手教員に拍手です。



映像を見つめる6年生



6年生からのシトラスリボン